

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(男性, 10歳未満)あります。血清型・毒素型はO157(VT1V T2)で, 症状は腹痛・水様性下痢・血便です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は接触感染です。本年の累積報告数は23例です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.05(43例)で, 2週連続で増加するとともに, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.80(33例)で, 前週(1.20, 49例)より減少したものの過去5年平均値の約3倍となっており, 多い状態が続いています。年齢階級別では2歳以下で報告があり, 1歳が18例(54.5%)と最も多く, 次いで6～11箇月の8例(24.2%)となっています。
- 突発性発しんの定点当たり報告数は0.51(21例)で, 先週(0.29, 12例)に比べ増加しています。年齢階級別では1歳以下で報告があり, 1歳が71.4%を占めています。

## ◆ 今週のトピックス: &lt; 感染性胃腸炎 &gt;

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は13.46(552例)で, 6週連続で増加するとともに過去5年平均値の冬季のピークを上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数把握の感染症

- 二類: 結核 3例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 399例(肺結核 166例, その他結核 86例, 潜在性結核感染者 147例)うち喀痰塗抹陽性 82例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 23例】

## 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	13.46	552
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.05	43
	③ 水痘	0.83	34
	④ RSウイルス感染症	0.80	33
	⑤ 突発性発しん	0.51	21
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

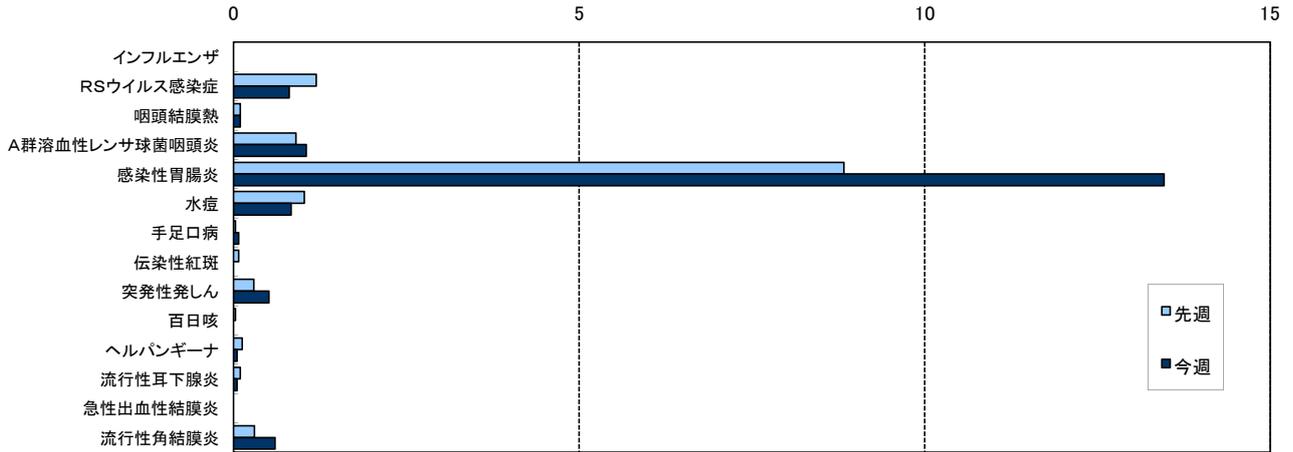
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: < 感染性胃腸炎 >

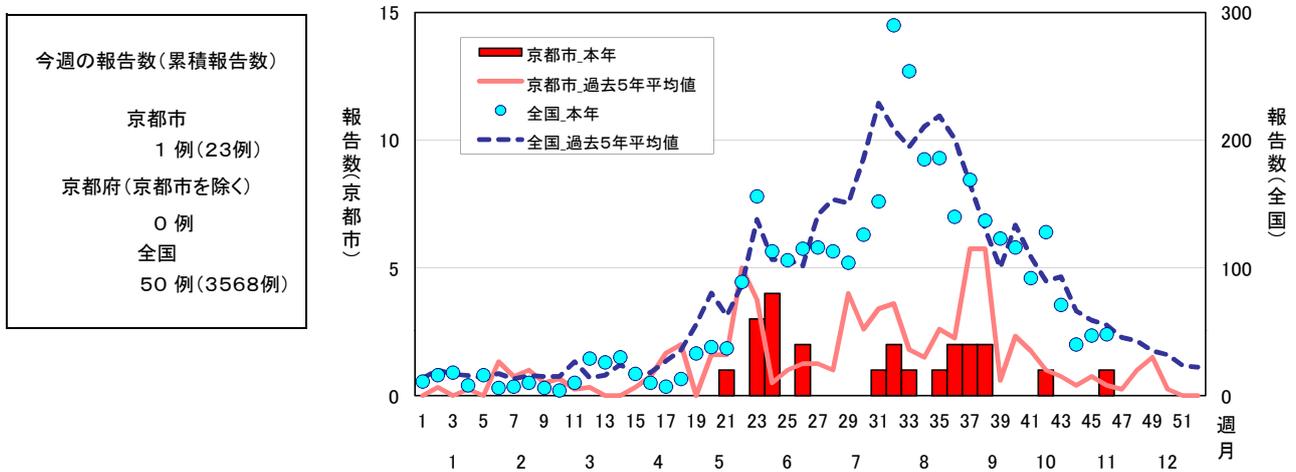
(注) 京都市のデータは, 平成24年11月22日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第46週)と先週(第45週)の定点当たり報告数の比較

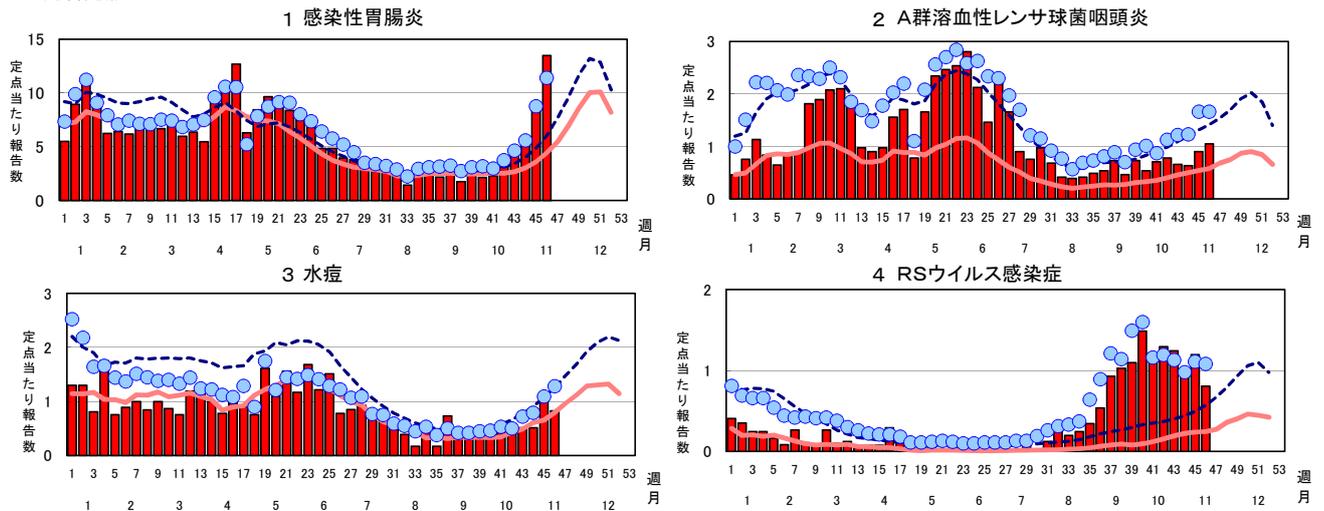


## 2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

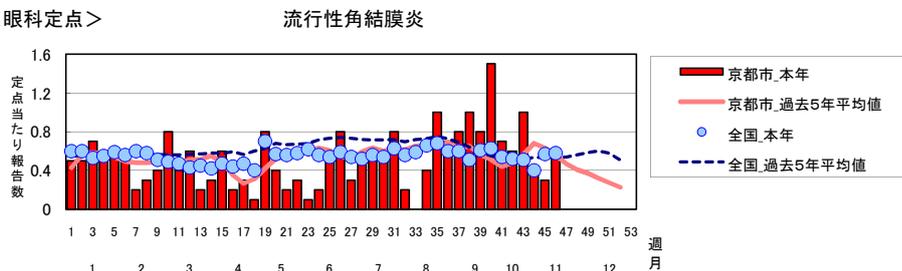


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第46週(11月12日～11月18日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は13.46(552例)で、6週連続で増加するとともに過去5年平均値の冬季のピークを上回っています。

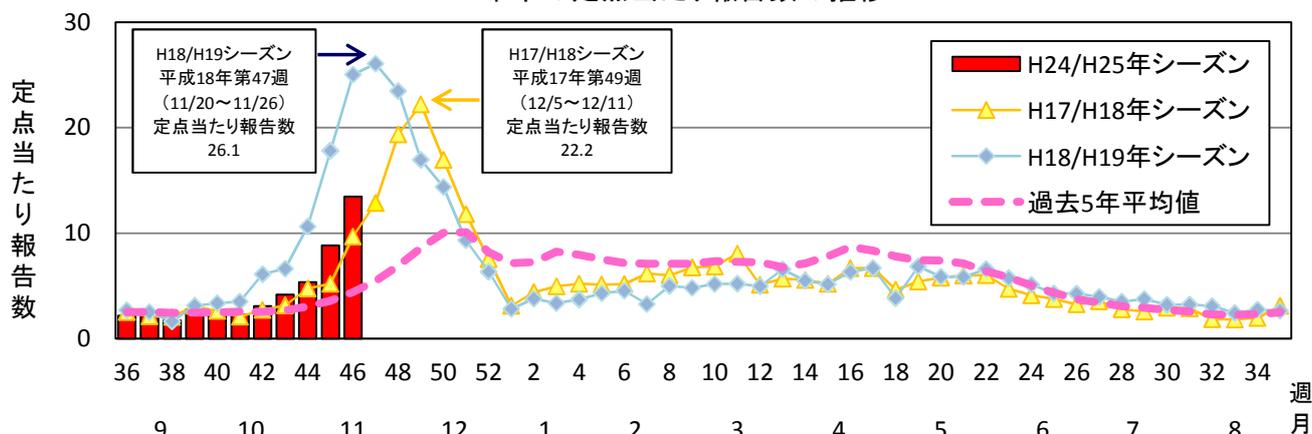
例年、ノロウイルス感染を原因とする感染性胃腸炎が冬季に増加し、11月～1月中にピークを形成します。過去、最も大きな流行であったH18/H19シーズンのピークは26.1(第47週(平成18年11月20日～26日)), 2番目に大きな流行であったH17/H18シーズンのピークは22.2(第49週(平成17年12月5日～11日))でした。本年も、過去5年平均値を大きく上回る流行になっていますので、今後の動向にご注意ください。

近畿6府県では、5府県で前週に比べ増加していますが、大阪府、和歌山県では増加率に鈍化がみられ、兵庫県では減少しています。

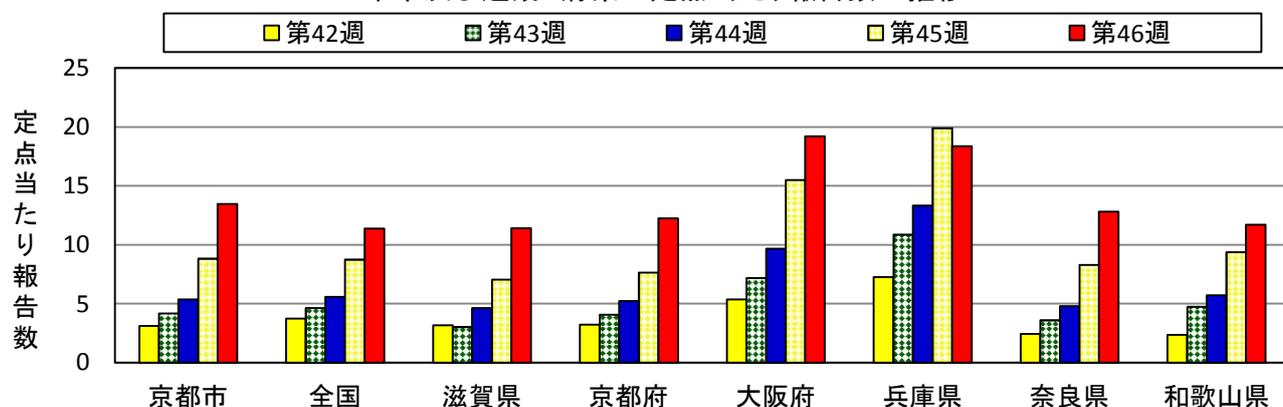
年齢群別にみると、各年齢層から報告がありますが、1歳が124例(22.5%)で最も多くなっています。

京都市衛生環境研究所に搬入された集団発生体の検体から、10月にノロウイルスG I (1事例), G II (1事例), 11月にノロウイルスG II (1事例)を検出しています。また、病原体定点において11月に採取された感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスG II 9件を検出しています。

本市の定点当たり報告数の推移



本市及び近畿6府県の定点当たり報告数の推移



年齢群別報告数の推移

